



晴れたり曇ったり、暑かったり寒かったり。目まぐるしく変わる空模様に関わされるように毎日が過ぎていきます。嵐のような風雨を耐えた若芽たちは、あとに、光る宝石の粒を戴いて一層輝きます。木も人もやっぱり生きていますね、同じように。

\*\*\*\*\*

### 3年生 初めての校外学習

#### ～こどもの国牧場（まきば）学校体験～

日曜日。午後から雨が降りだしました。どうなることかと気をもみ、てるてる坊主を作って祈った3年生がいたことでしょう。なぜなら、翌日に初めての校外学習、楽しみにしていたこどもの国見学が予定されていたからです。4月25日月曜日の早朝。空気は雨で洗われたように澄んで、青空が広がっていました。絶好の牧場日和です！

教室で身支度を整え、霧が丘校舎を出発した18人の3年生の足取りは軽く、順調にこどもの国に着きました。入場口をくぐり、牧場までしばらく歩きます。崖からしみ出る湧水をクロアゲハが飲みに来ている！竹やぶに筍が生えている！と発見しては大騒ぎしているうちに牧場に到着しました。



早速、牛たちが餌を食べている牛舎に案内されました。初めて牛を見たという子どももいて、その大きさに圧倒されていたようでした。天井から下がっている牛の情報（名前、生年月日、種類など）が書かれている札にも興味津々。飼育員さんは牛の一生について話してくださいました。子牛の角を焼いて生えないようにすること、牝牛は赤ちゃんができないとお乳を出さないこと、牛は一日中餌を食べていること。食べればフンが出るが、そのフンを牛舎の裏に集めて、2,3か月かけて畑の肥料を作っていること。そしてお乳が出な



くなった牛は、食肉になること。お話の締めくくりの部分では、「かわいそう・・・。」というつぶやきが聞こえましたが、飼育員さんは、すかさず「そうだね。かわいそうと思うでしょう。でも牛さんたちは生まれてから命が終わるときまで、ずっと人間のために働いてくれているのだから、残さずに頂くのが、牛さんへの感謝の気持ちになると思いますよ。」と教えてくださいました。

堆肥の見学を終え、牛や羊に餌をやって仲良くなれたころ、乳搾り体験をさせていただきました。牛の乳房は後ろ足の付け根の両側についているので、左右同時に二人の子どもが搾れます。係のお姉さんたちの導きで、こわごわ乳房を握っていきます。「あったかあい。」「お乳が出た。」と口から感想がこぼれ出ます。乳しぼりを終えて牛の前に立ち、「ありがとう。」とお礼を言った子もいました。

全員が乳を搾り終わったところで、お昼休み。牧場の隣に広がる子ども牧場（人間用の原っぱ）の木陰でお弁当です。食後にもかかわらず牧場内の丘に駆け上がり駆け下り、思う存分走り回り、原っぱ遊びを満喫した3年生は、午後の体験「羊の毛刈りショー」に向かいました。

(次のページへ)



日差しがかなり強くなっていました。羊のロイズちゃんは、14歳のご高齢の羊さんだそうです。羊舎の外にしゃがみ、暑さにもかかわらず、皆真剣な眼差しをロイズちゃんと飼育員さんに向けました。羊の先祖は季節によって毛が生え替わっていたそうですが、人間に飼育されるようになってから、品種改良で夏でも毛替えをしなくなりました。暑くなる前に人の手で刈ってやらないと、羊は病気になってしまいます。羊の囲いを見ると、もうほとんどの羊がござっぱりと、少し太めの山羊くらいになっていたのを見ると、ロイズちゃんはわたしたちのために待っていたことになりそうです。もこもこの毛が大きなバリカンでどんどん刈られていく様子を、子どもたちは目を皿のようにして見守っていました。最初は少し嫌がっていた羊も、飼育員さんの魔法（体が動かないような体の押さえ方）と涼しくなってきたためか、静かに身を任せ、まるで「セーターを脱ぐ」かのようにつかつかの毛を刈られていきました。



毛刈り見学も堪能し、最後にもう一度子牛たちをよく見てから、3年生は飼育員さんたちにお礼と挨拶を述べて牧場を後にしました。

学校に戻りペレに参加していた3年生数名が、早速「牛飼いごっこ」で牧場の再現をしていたとの目撃情報がありました。それだけ印象深く楽しい学びだった、ということでしょう。

次の日は引率もしてくださった野村直代先生のご指導の下、頂いてきたロイズちゃんの毛を丸ごと洗濯します。

明日もお天気に恵まれますように、と願いながら帰途につきました。

(3年生担任 長井麻美)

4月29日、シュタイナー学園（藤野）にて、東京賢治シュタイナー学校、横浜シュタイナー学園の6年生による、3校合同のオリンピックが開催されました。6年生担任伊藤雅子先生からの報告です。

\*\*\*\*\*

## 6年生の3校合同オリンピック

5年生という学年は『子供時代の黄金期』と呼ばれますが、この時期の子どもたちをよくよく観察していると、古代ギリシャ時代と本質的に非常に深く結びついていることがみえてきます。古代ギリシャの人々が、理想を持ち、その美的感覚を地上世界に実現していったという学びは、この年齢の子どもたちの心を惹きつけました。こどもが神さまの世界から離れることは、おとなにとっては残念な気持ちを生むこともあるでしょう。けれども子どもたちが、その世界を心の何処かに残しつつ、地上世界の素晴らしさに目覚め、出会っていくことをうまく助けて行くことも大切なこと。彼らの内側から湧き出るものに目を向けると、この学びがこの時期の彼らの心魂にとって滋養となることがよくわかります。

古代ギリシャ時代のお話に耳を傾け、たつぷりと学んで6年生に進級した子どもたち。ついに自分たちで古代のオリンピックを再現するときがやってきました。

東京賢治シュタイナー学校、シュタイナー学園（藤野）との3校合同オリンピックは、子どもたちの意欲を大いに盛り上げました。事前にお手紙を送り合ったことで、個性あふれる同い年の子どもたちがたくさんいて、別の場所で同じ学びをしていること、同じ目標を持って励んでいることなどを実感し、オリンピックを楽しみにする気持ちもぐんと高まりました。それと同時に、心配や焦りも生まれる子どもたち。

『先生、そんなにのんびりしていて大丈夫なんですか？』『早く教えてください！ちゃんと練習しないと！』『他の学校では、槍投げも幅跳びもしっかりやっているはずですよ？』『もっと走って体力をつけたいです。』『笛は？言葉は？まだ覚えていないけれど、どうしよう？』と日々私をせっつきまします。そんな調子ですから、いざ、その時が来ると、教えることはぐんぐん吸収し、注意事項はきちんと守り、毎日毎日一生懸命に取り組みました。

校庭のないわが校には様々な制限があります。近隣の公園で円盤投げはできますが、槍を投げることはできません。砂場もなければ、陸上のトラックもありません。そんな中でも、槍投げ練習のためにそれらしい棒を探してきたり、幅跳びにふさわしい場所を選んだり、打ち払われた枝を拾ってきて、のこぎりやすりでバトンをこしらえたりして、『無い』ことのハンデを工夫し、生み出し、埋めようと努力する子どもたちの熱意と姿に感心しました。

この年齢に起こりがちな『勝ち負け』や『他者との比較』への意識を『調和のとれた美しさ』『神々への捧げ物としての競技』『平和の祭典』という本来の方向性へと視点を戻す働きがけは幾度も必要になりましたが、子どもたちは仲間にアドバイスを送ったり、励ましたり、褒め合ったりしながら、全体的に力をつけ高め合っていました。また合同練習を通して、他校の生徒たちと交流が生まれ、大いに

刺激を受けて、回を重ねるごとに一層熱が入っていきましました。

そして、とうとう迎えた本番の4月29日。雲に覆われた空とは裏腹に、彼らの表情は喜びに満ち溢れ、輝いておりました。

キトンに身を包んで4つのポリス（アテネ、コリントス、テーベ、スパルタ）ごとに並ぶ6年生たち。喜びいっぱいの笑顔、意気込みあふれる顔、緊張でひきつる顔、心配そうな顔、たくさんの顔がずらりと並んで総勢60名！各校からの審判団の教員扮する神々たちも列をなし、ご家族の見守る中、開会のファンファーレが響きます。

宣誓の言葉や歌、笛の音が響き、火起こしを頑張り見守る中で生まれた聖火は、この日、ずっと子どもたちに力を送り、見守り続けてくれました。

どの競技も、動きの力強さや美しさ、自分の力をいかして最後までやり遂げたかどうかが判定の基準になります。その上で走り幅跳びでは、高く、遠くを目指して地面を蹴る姿が見られました。中距離走ではゴールまで、力を抜くことなく足を動かし、息を切らせ顔を紅潮させて戻ってくる一人ひとりの表情が胸をうちました。円盤投げは回転を生み出すための8の字のリズムが最後の1週間でしっかりと体に刻まれ、うまく力を伝えて投げることができました。槍投げは虹のような弧を描くことを意識して、まっすぐに力を伝えることができました。そして、最後のリレーでは、真剣なまなざしで、それぞれが力を出し切り、仲間を応援し、労い合い、大いに活気づきました。満足な結果を残してすがすがしい気持ちを味わった子もいたでしょうし、練習を重ねてきてずいぶん向上したのに、本番が自分にとってのベストでなかったと悔しい気持ちが生まれた子もいたことでしょう。それらの結果がどうであれ、みんなで体験できたこのオリンピックは、彼らにとって大きな大きな贈り物であったと思います。

閉会宣言のときに、それまで待っていていたかのように、空からポツリポツリと雨粒が降りてきました。会場の上にぎっしりとかたまって見守っていた天使たちが、ぐるりと輪になって天の窓が開いたように思いました。そんな中に響く『アポロンの歌』や『喜びの日』は美しく優しく響いて、全体を優しく包み込み、大きな祝福を浴びているような気持ちになりました。

花びらで消された聖火は煙とともに天に帰りましたが、きっとその炎は子どもたちのなかに灯され続けることでしょう。

私もまた静かにこの炎をそっと胸の内にしまいました。たとえこの炎が揺らいでも消えそうになっても、卒業を迎えるその日まで、子どもたちが薪をくべ続けてくれることでしょう。私もまた子どもたちの炎を見守り、薪をくべ続けようと、決心を強めた大切な日となりました。

（6年生担任 伊藤雅子）

# インフォメーション

～詳細やお申込方法については学園サイトをご覧ください～

## 2023 年度入学・転入説明会

【A】「シュタイナー教育とは」「教育内容」

【B】「保護者の学園への関わり」

\* A→B の順で両方の回に必ずご出席ください。

6/18(土) 入学説明会 A

6/25(土) 入学説明会 B

9/4(日) 入学説明会 A

9/10(土) 入学説明会 B

9/17(土) 入学説明会 A

9/25(日) 入学説明会 B

詳細は学園サイトをご確認ください。

## 大人のオイリュトミー

体を動かすのが好きな人も！体を動かすのが苦手な人も！  
音楽やことばに合わせて、仲間と共に動いてみませんか？  
オイリュトミーを続けていくと今までより深く音楽を体験したり  
詩が心の中に強くひびいてくるようになってたりします。  
初めの方も、経験のある方も、ぜひご参加ください。

講師：市川 聡子（オイリュトミー専科教員）

日程：1 学期 6 月 20 日、7 月 11 日

（いずれも月曜日）

時間：9:15～10:45

会場：霧が丘校舎

参加費：1 回 1,500 円

（NPO 会員、NPO 賛助会員パスポートをお持ちの方は適用されます。）

参加費は当日直接お支払い下さい。

事前の予約制、講座開催日の一週間前までにお申込みください。

## 連続講座 シュタイナー学校を知りたい!②

### 「かずと音楽」

日時：7 月 3 日（日） 10:00～12:10

会場：霧が丘校舎

## 連続講座 シュタイナー学校を知りたい!③

### 「幾何学と音楽」

日時：7 月 3 日（日） 13:45～15:55

会場：十日市場校舎

参加費：各回 3,000 円（一般）・2,800 円（NPO 会員）

一日 5,000 円（一般）・4,800 円（NPO 会員）

\*NPO 会員・NPO 賛助会員パスポートをお持ちの方は  
適用されます。

※②のみ保育（有料）の用意があります。お子様とご一緒の参加  
はできません。

連続講座の詳細につきましては、学園サイトをご確認ください。

## ☆星の金貨より☆

涼風書林やイザラ書房の興味深い書籍、アトリエルピナスの季節のポストカード、香りの優しいヴェレダのオイル、美しいシルクや綿の布、手触りのいい木工品など揃えております。  
子どもたちが使用しているクレヨンや色鉛筆、エポックノートもごございます。どうぞお立ち寄りください。



お問い合わせ ☆星の金貨  
kinka.hoshino7@gmail.com

## ～事務局より～

ご寄付ありがとうございます。

（順不同・敬称略）

花岡真寿美、室恵子、星の金貨

学園にお気持ちを寄せてくださり、心より感謝申し上げます。

横浜シュタイナー学園

～Newsletter 第 150 号～

2022 年 5 月 31 日発行

編集： 広報の会

発行： NPO 法人 横浜シュタイナー学園

https://yokohama-steiner.jp

〒226-0016 横浜市緑区霧が丘 3 丁目 1-20

TEL： 045-922-3107

※掲載内容の無断転載をお断りします

お問合せ、お申込み先

横浜シュタイナー学園事務局

Tel: 045-922-3107

e-mail: [gakuen-info@yokohama-steiner.jp](mailto:gakuen-info@yokohama-steiner.jp)

【会費・ご寄付等お振込先】

郵便振替： 00260-0-130702

加入者名：特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園

ゆうちょ銀行：店番 029 支店名 029 店（せにきり店）当座 0130702

